

男女共生社会について

□調査期間 平成30年2月28日～平成30年3月9日

□調査の趣旨 男女共生の社会の実現に向け、各種施策を推進しています。今後の取り組みの参考とするため、皆様のご意見をお聞きます。

□対象者数 607 人(平成30年2月28日現在)

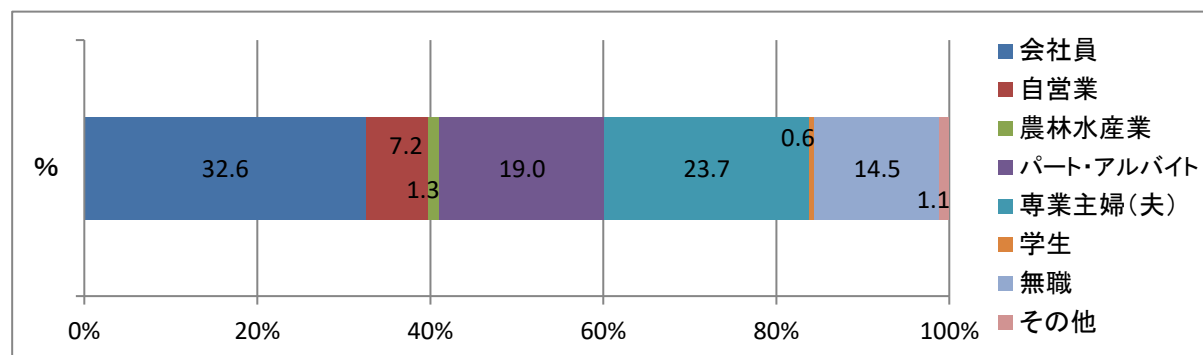
□回答者数 469 人

□回答率 77.3 %

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

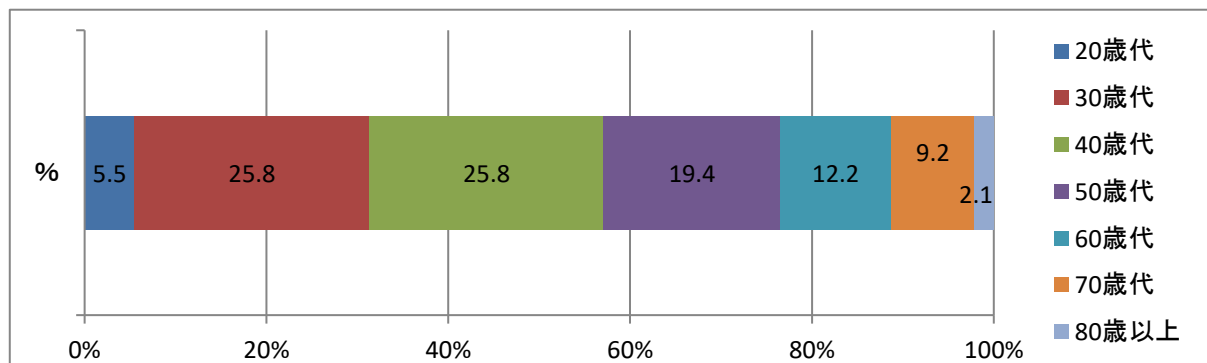
【職業】

内訳	人数	%
会社員	153	32.6
自営業	34	7.2
農林水産業	6	1.3
パート・アルバイト	89	19.0
専業主婦(夫)	111	23.7
学生	3	0.6
無職	68	14.5
その他	5	1.1
合計	469	100.0



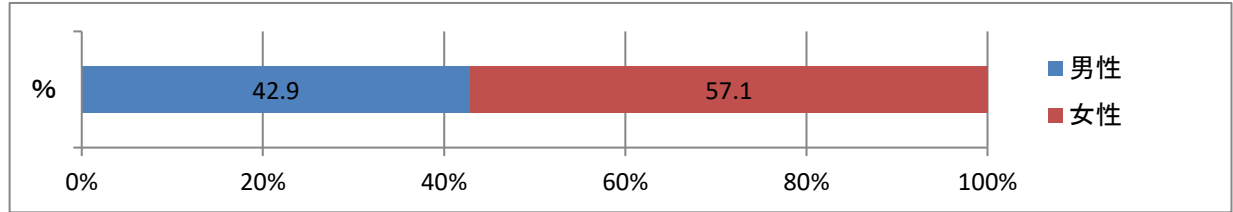
【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	0	0
20歳代	26	5.5
30歳代	121	25.8
40歳代	121	25.8
50歳代	91	19.4
60歳代	57	12.2
70歳代	43	9.2
80歳以上	10	2.1
合計	469	100.0



【性別】

内訳	人数	%
男性	201	42.9
女性	268	57.1
合計	469	100.0

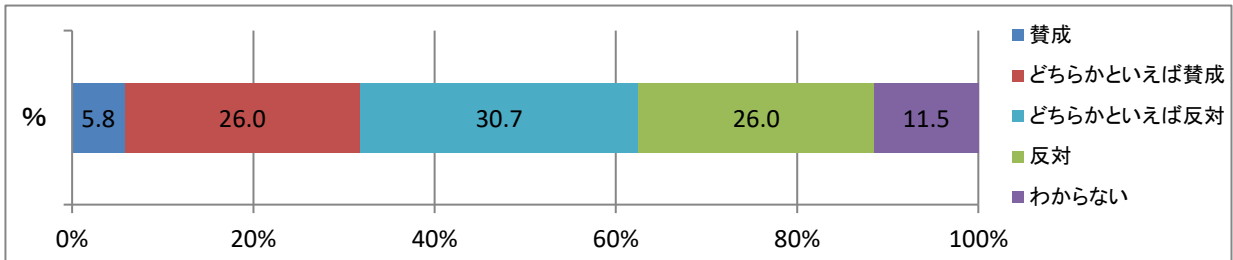


【導入】

男女共生社会とは、男女が互いに人権を尊重し、職場・家庭・地域社会等のあらゆる分野において、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことです。

【問1】 あなたは、「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方についてどのように思いますか？

内訳	人数	%
賛成	27	5.8
どちらかといえば賛成	122	26.0
どちらかといえば反対	144	30.7
反対	122	26.0
わからない	54	11.5
合計	469	100.0



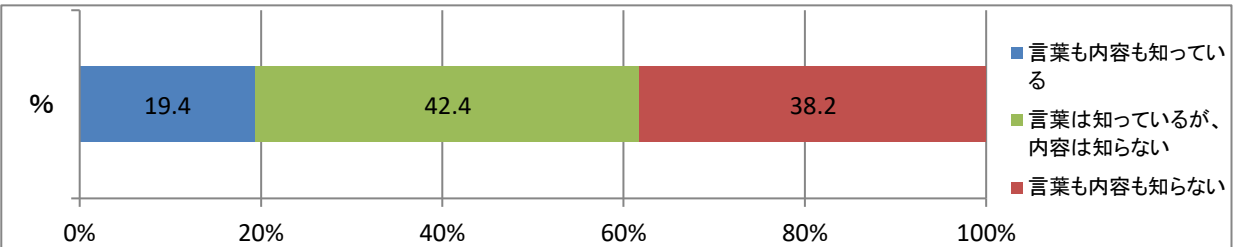
【導入】

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)とは、「働く場面で活躍したい」という希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主(国や地方公共団体、民間企業等※)に義務付けられた法律です。

※常時雇用する労働者が300人以下の民間企業等にあつては努力義務。

【問2】 女性活躍推進法について、知っていますか？

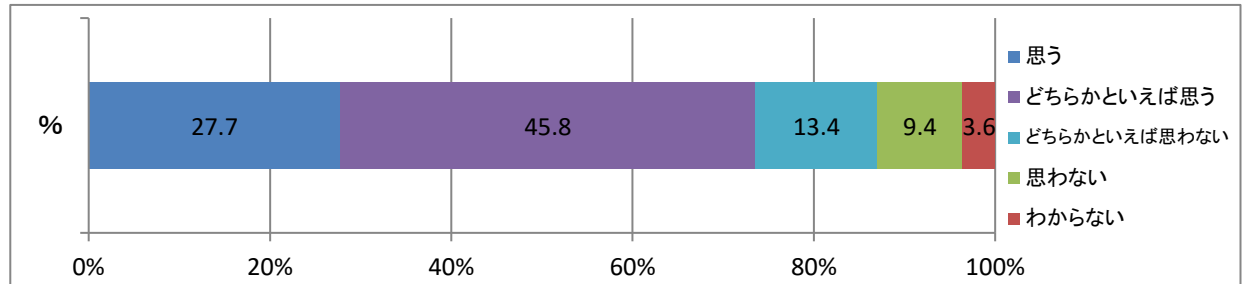
内訳	人数	%
言葉も内容も知っている	91	19.4
言葉は知っているが、内容は知らない	199	42.4
言葉も内容も知らない	179	38.2
合計	469	100.0



【問3】 女性が職業を持ち続けていく上で、次の各項目が問題になると感じますか？それぞれお答えください。

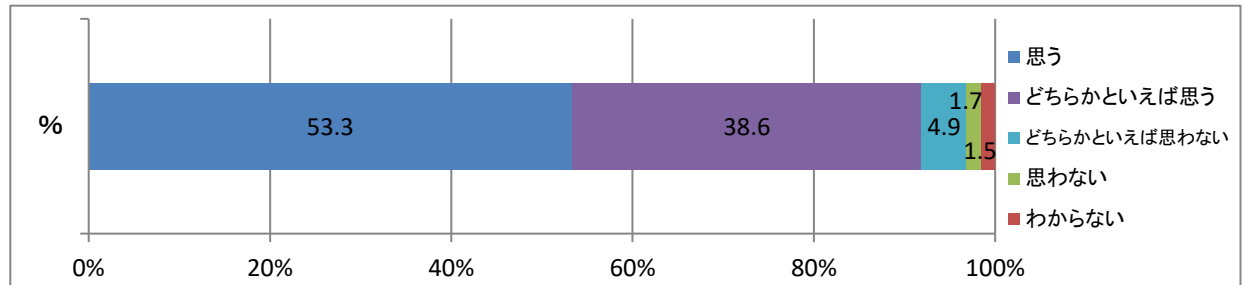
【問3-1】 職場が結婚・出産した女性を受け入れない傾向がある

内訳	人数	%
思う	130	27.7
どちらかといえば思う	215	45.8
どちらかといえば思わない	63	13.4
思わない	44	9.4
わからない	17	3.6
合計	469	99.9



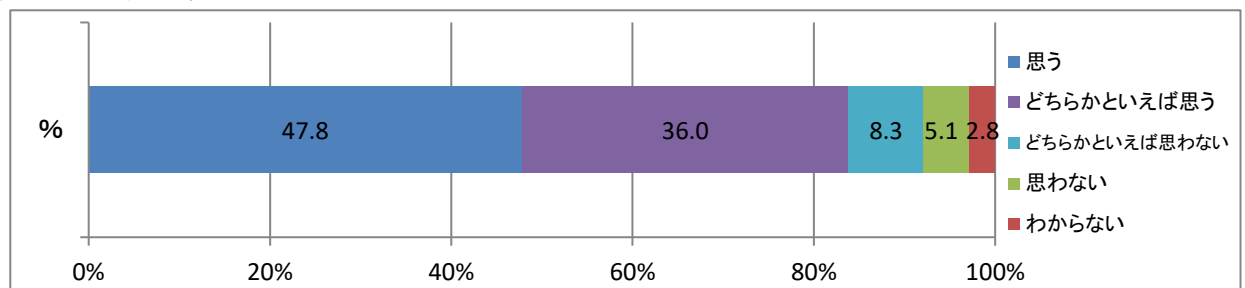
【問3-2】 家事や育児・介護との両立は難しい

内訳	人数	%
思う	250	53.3
どちらかといえば思う	181	38.6
どちらかといえば思わない	23	4.9
思わない	8	1.7
わからない	7	1.5
合計	469	100.0



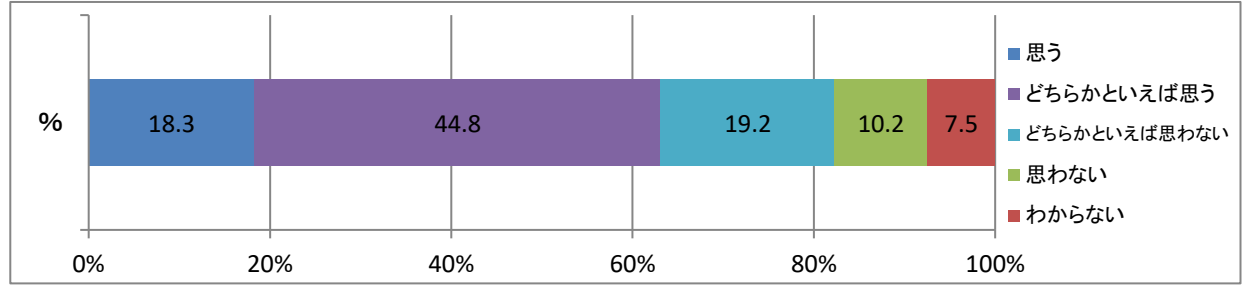
【問3-3】 産前産後休業や育児・介護休業、再雇用などの制度の浸透が不十分である

内訳	人数	%
思う	224	47.8
どちらかといえば思う	169	36.0
どちらかといえば思わない	39	8.3
思わない	24	5.1
わからない	13	2.8
合計	469	100.0



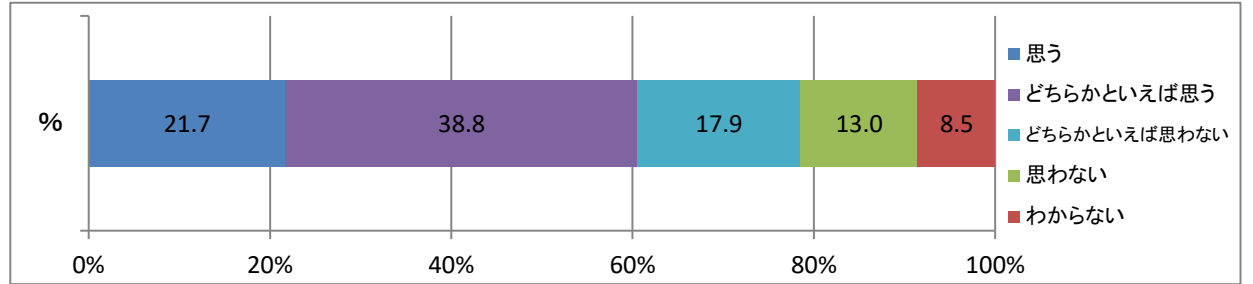
【問3-4】 職場が責任ある仕事を女性に任せない

内訳	人数	%
思う	86	18.3
どちらかといえば思う	210	44.8
どちらかといえば思わない	90	19.2
思わない	48	10.2
わからない	35	7.5
合計	469	100.0



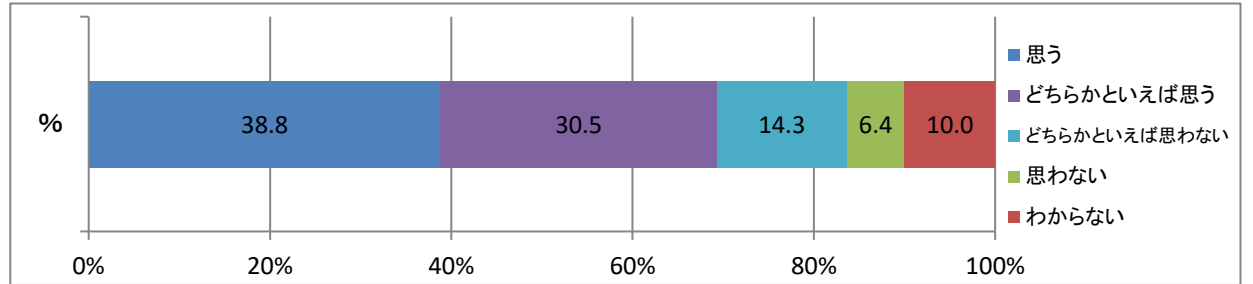
【問3-5】 配偶者や家族の支援がない

内訳	人数	%
思う	102	21.7
どちらかといえば思う	182	38.8
どちらかといえば思わない	84	17.9
思わない	61	13.0
わからない	40	8.5
合計	469	99.9



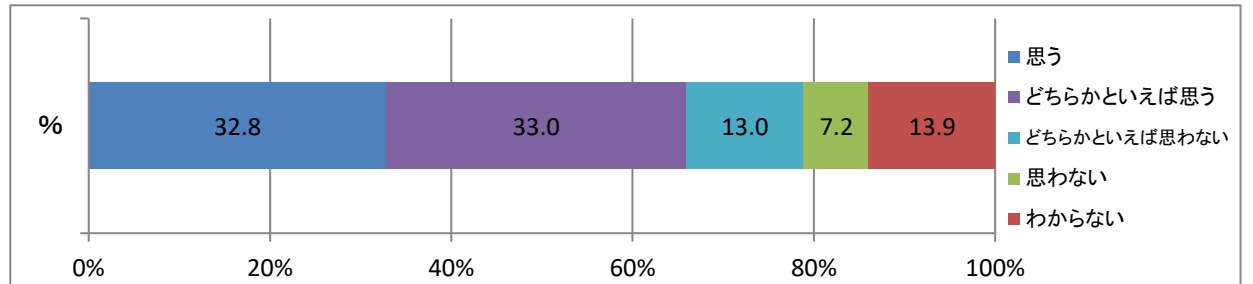
【問3-6】 保育施設の数や内容が不十分である

内訳	人数	%
思う	182	38.8
どちらかといえば思う	143	30.5
どちらかといえば思わない	67	14.3
思わない	30	6.4
わからない	47	10.0
合計	469	100.0



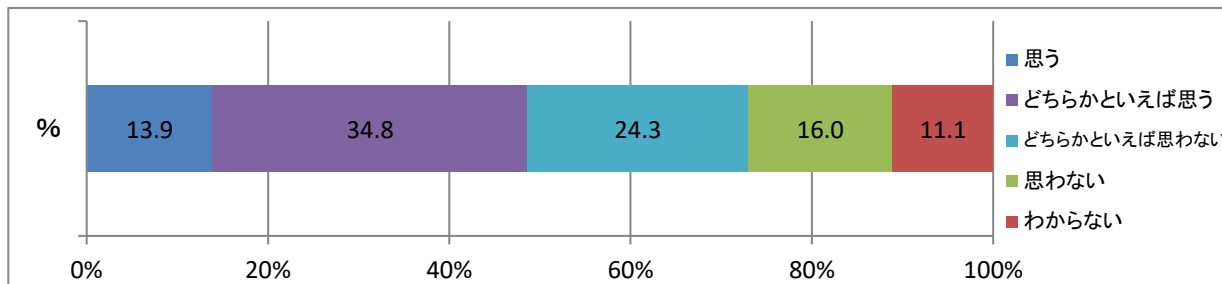
【問3-7】 介護施設の数や内容が不十分である

内訳	人数	%
思う	154	32.8
どちらかといえば思う	155	33.0
どちらかといえば思わない	61	13.0
思わない	34	7.2
わからない	65	13.9
合計	469	99.9



【問3-8】 女性自身の職業に対する自覚が不足している

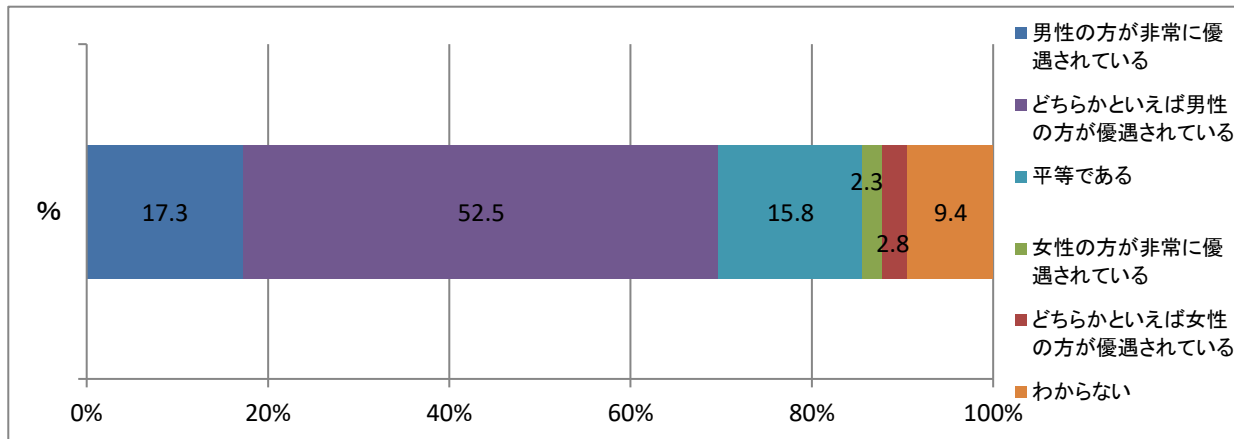
内訳	人数	%
思う	65	13.9
どちらかといえば思う	163	34.8
どちらかといえば思わない	114	24.3
思わない	75	16.0
わからない	52	11.1
合計	469	100.1



【問4】 就労について、性別による差があると思いますか？各項目について、それぞれお答えください。

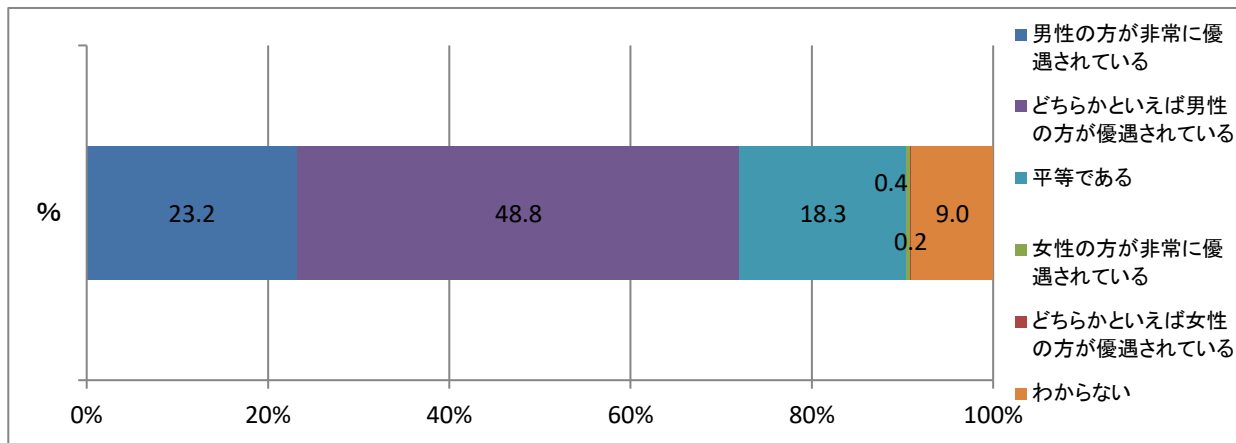
【問4-1】 募集・採用

内訳	人数	%
男性の方が非常に優遇されている	81	17.3
どちらかといえば男性の方が優遇されている	246	52.5
平等である	74	15.8
女性の方が非常に優遇されている	11	2.3
どちらかといえば女性の方が優遇されている	13	2.8
わからない	44	9.4
合計	469	100.1



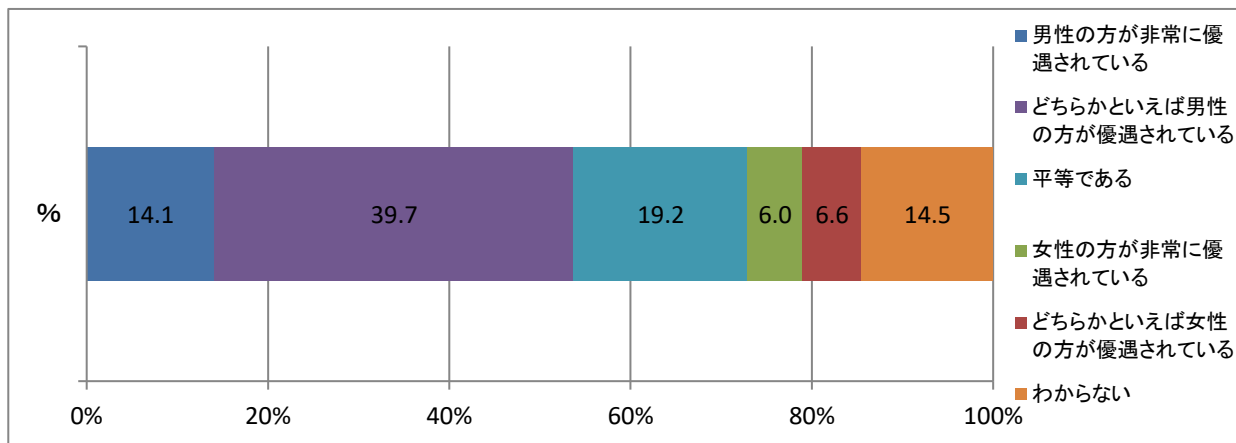
【問4-2】賃金

内訳	人数	%
男性の方が非常に優遇されている	109	23.2
どちらかといえば男性の方が優遇されている	229	48.8
平等である	86	18.3
女性の方が非常に優遇されている	2	0.4
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1	0.2
わからない	42	9.0
合計	469	99.9



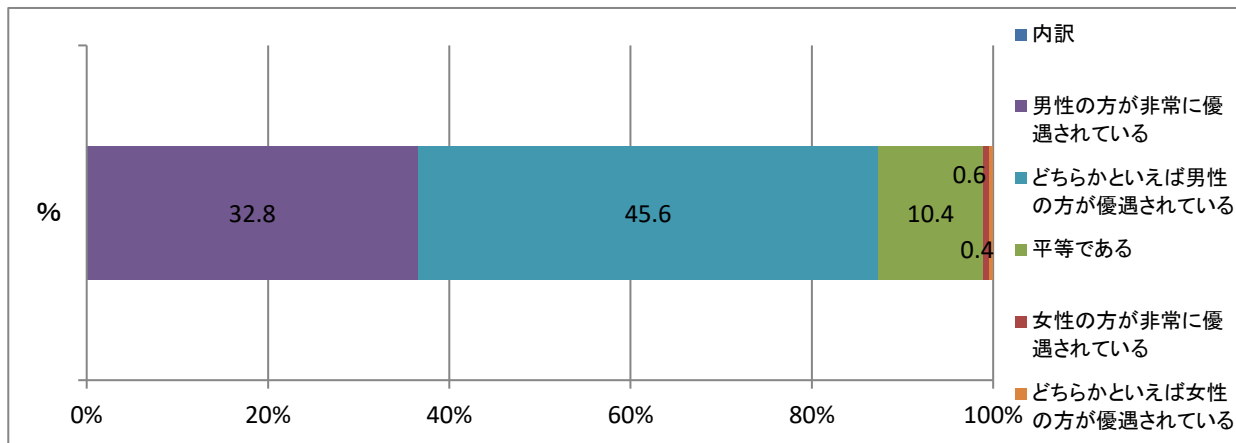
【問4-3】仕事の内容

内訳	人数	%
男性の方が非常に優遇されている	66	14.1
どちらかといえば男性の方が優遇されている	186	39.7
平等である	90	19.2
女性の方が非常に優遇されている	28	6.0
どちらかといえば女性の方が優遇されている	31	6.6
わからない	68	14.5
合計	469	100.1



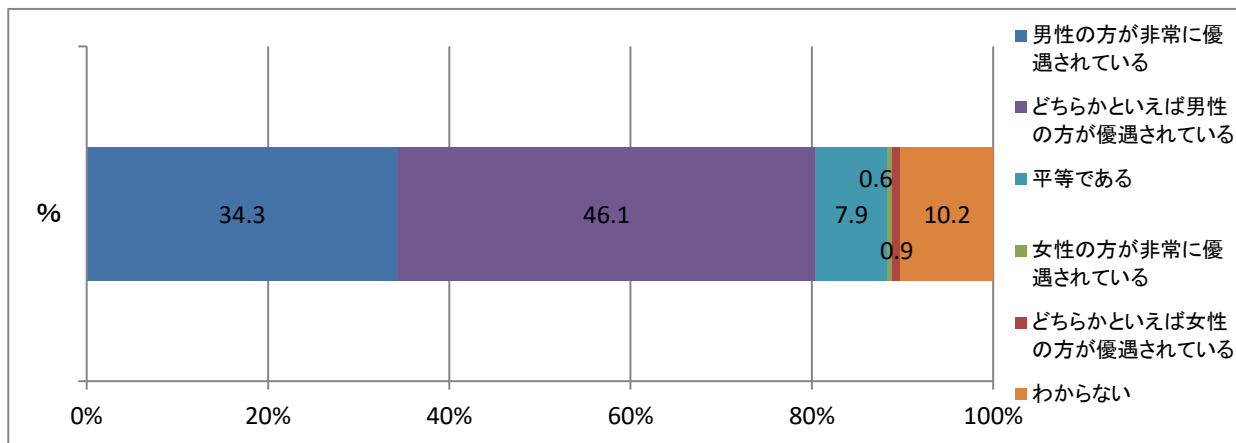
【問4-4】昇進・昇格

内訳	人数	%
男性の方が非常に優遇されている	154	32.8
どちらかといえば男性の方が優遇されている	214	45.6
平等である	49	10.4
女性の方が非常に優遇されている	3	0.6
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2	0.4
わからない	47	10.0
合計	469	99.8



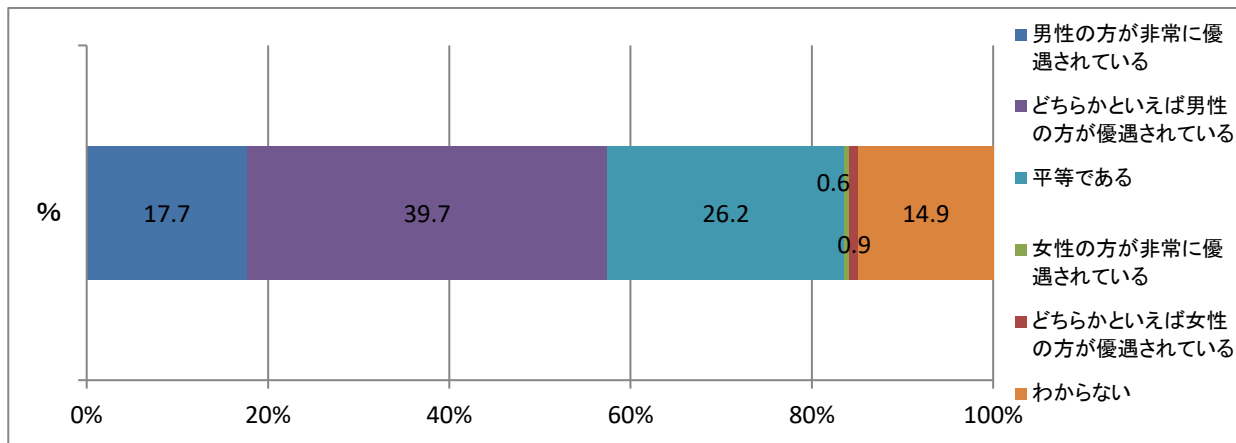
【問4-5】管理職への登用

内訳	人数	%
男性の方が非常に優遇されている	161	34.3
どちらかといえば男性の方が優遇されている	216	46.1
平等である	37	7.9
女性の方が非常に優遇されている	3	0.6
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4	0.9
わからない	48	10.2
合計	469	100.0



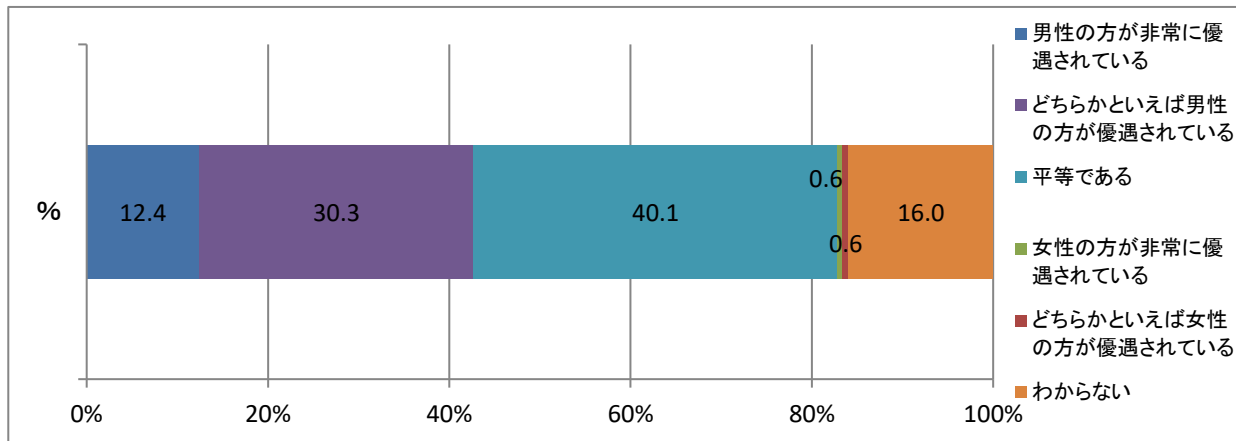
【問4-6】 人事評価(業績評価・能力評価など)

内訳	人数	%
男性の方が非常に優遇されている	83	17.7
どちらかといえば男性の方が優遇されている	186	39.7
平等である	123	26.2
女性の方が非常に優遇されている	3	0.6
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4	0.9
わからない	70	14.9
合計	469	100.0



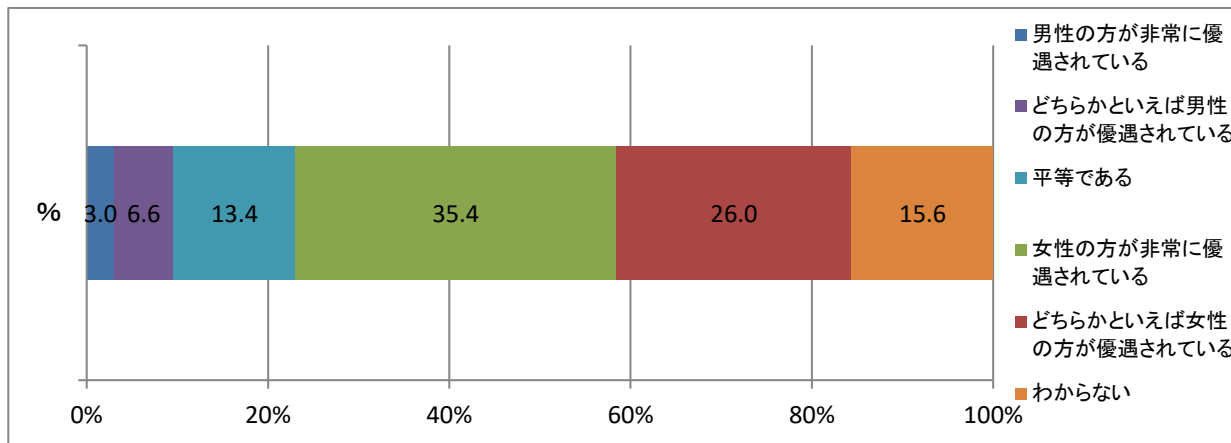
【問4-7】 研修の機会や内容

内訳	人数	%
男性の方が非常に優遇されている	58	12.4
どちらかといえば男性の方が優遇されている	142	30.3
平等である	188	40.1
女性の方が非常に優遇されている	3	0.6
どちらかといえば女性の方が優遇されている	3	0.6
わからない	75	16.0
合計	469	100.0



【問4-8】 育児・介護休業などの休暇の取得

内訳	人数	%
男性の方が非常に優遇されている	14	3.0
どちらかといえば男性の方が優遇されている	31	6.6
平等である	63	13.4
女性の方が非常に優遇されている	166	35.4
どちらかといえば女性の方が優遇されている	122	26.0
わからない	73	15.6
合計	469	100.0



【問5】 男女共生社会に関して、ご意見がありましたらお聞かせください。

同じ時間同じ量をこなしたところで男性の方が給料面がよいのはおかしいと思います。

共働きで子どもを育てているが、やはり子育てのメインは母親。緊急時の保育所へのお迎えは父親が職場を離れにくく、母親が行くのが当然な風潮があるが、そうすると母親の職場での立場が悪くなる・いつ早退するか、わからないので責任ある仕事を任せられない、という事になってしまう。保育所は20時まで預かってほしい。

個人差が大きいので一概には何とも言えない。

男女共生社会を完全に実現するためには、時間がかかるかもしれないが、社会全体の意識改革が必要であると思う。

働きやすく、女性だから、という意識がないようにしてもらいたい。

法律や制度を作るのも大事ですが、それを使えるよう指導するのが大事だと思います。

育児休暇を夫婦で最低限取得しなければいけない日数を定めるべき。そしてその日数を夫婦である程度譲りあいながら取得できるよう融通性ももたせるべき。子育てをしている若い現役世代の意見をもっと聞いてほしい。

法律的には平等であると思うが、男女ともに、意識がついて行っていないように思う。その部分をよく考えて実行しないと効果が出ないのではなかろうか？

女性の中にも甘えは大いにあると思う。

子どもの保育園問題だけでなく、職場には、突発的な熱による早退なども当たり前を受け止めて欲しい。

自身の権利だけを主張し社会保障を得て、産後に復帰もしないのが現状では、共生とは言えないのでは。

現状では何事も男性が優遇される環境にあるが、育児や介護の環境を充実することにより、改善・平等の方向へ向かうのでは。

女性の就労は否定しないがその前に生産年代の男性の就労を促す国、企業、行政の強力な施策が重要だと思います。

会社の状況と個人差があるので一概に答えにくい。ただ、環境整備として法律などの認知度を浸透させること、保育所などの充実は重要だと思う。

政府はもっと男女平等の就業規則の確立を企業に義務付け、罰則も設け、女性を差別しないような政策を実施すること。業務上男女格差のない優れた企業には、税制上の優遇処置を採用すること。今の政府は、企業寄りの政策ばかり、男女個人への対策不足です。

大企業や行政と中小零細企業とでは対応が違う。

世の中の半分は女、もう半分は男。かつての教育やしつけを受けて育った、古い世代が亡くなれば、だんだんと、ジェンダーに絡み取られた発想や制度は、ほころびが出てくるはずだと思います。おおらかに、長期戦で、自分を含めて世の中をジワリと変えていけたらよいのでは。

どちらか一方が働くだけで生活できる社会をつくらなければならない。両方必死で働いても生活しにくい社会はおかしいと思う。

以前働いていた会社の状況で回答しました。女性の役員、管理職、研究者、技術者も多く、男女の差は少なかったです。なお、海外ではより女性の活躍・発言力は大きいです。

独身で子どももない男性には何の手も援助もさしのべられないし、声も拳がらないのはハッキリ言わなくても逆差別ではないでしょうか？能力のない女性を社会に参画させても時間と金のムダです。

もっと平等であって欲しい。

職場、職業により差違があり一概に平等とは困難かと思うが、良いとこ取りな社会を望む！

以前勤めていた職場では、育休を取って復帰した人はごくごく少数であり、復帰してきた人は管理職にきつく当たられたり飛ばされたりしていました。女性の社会進出や社会での活躍を望むのは勿論ですが、実際問題、生理や出産、育児など生物的に男性と違う点があるので仕方ない、難しいことも多々あると思います。

和歌山市も、もっと、女性の管理職を増やせば？

企業も個人(配偶者)も女性は家事、育児、介護を優先するべきとの意識が強いと思います。まずは、意識変革をしないと崩しになるのでは。

男女平等なんて夢のまた夢

保育園や幼稚園に通うまでの子供の託児所(公的認可有り)が欲しい。今、ある託児所は、無認可ばかり。

働く女性の意識も改革されないと男女共生社会も浸透しないと思います。ただ主婦業と仕事と子育ての両立はなかなか難しい。夫の理解があつてこそその男女共生社会がありうるとは思います。医者・弁護士・先生などしっかりとした肩書のある方々は自覚をもって働いているし働き方も家族の理解があつて両立させているのでは。中途半端な意識では働けないこともしっかりと自覚すべきです。

私も家事子育て優先のため、パート勤務です。男女お互い足りない所を補えるような社会になれば良いなと思います。在宅ワークがもっと増えて欲しい。

各家庭によって共働き希望(扶養範囲内、外)専業主婦希望など、かなり違いがあるし、会社員や自営業など職業によっても違うので、一概には言えない問題だと思います。

男性と女性を同一として考えるのは無理がある。体力的な面もあり、差があつても不思議でない。

日本型の特徴や個性を大切にしつつグローバルな流れを吸収して欲しい。

形式的な公平、平等はかえって実質的な不平等を助長すると思います。地域の実情に合わせながらも、形式的に不平等でも実質的に公平、平等になるように社会をゆるやかに変革いたしましょう。100年前には、イギリスにも参政権がなかったことを考えると急ぐ必要はありません。

現在では女性が社会に出て働く事のごく当たり前にはなってきましたが、その分昔だと、子育ては自分でと当たり前でしたが、託児所や他で預けて働けて、それで事業所が潤う事にもつながっているのではないのでしょうか。お年寄りも同じ事だと思います。

男性も女性も同等というのはあくまでも、たてまえだと思います。子育てということで、ただ女性がすべきだとは思いますが、実際に、妻に負担がかかるのは、覚悟して出産すべきだと思います。

社会や企業もそうだが、家庭の理解協力が最も必要

和歌山の時代遅れ感はとても感じる。政策ではなく人の意識のほうに特に強く。

昔と違って、今は女性が家庭に入らず働ける職場が増えてきているし、皆の意識も変わってきている。いいことだと思う。しかし、子供が急に熱を出して会社を休まなければいけない時の対処でどうにかいい方法はないかと思う。

女性ばかり、得をしていることを感じるようになってきました。

男女の特性はあるのでより効率よく見極めて働くことが望まれます。

職業の業種ではどうしても男性しかできない内容がある。

日本人は、無理をしてまで、女性を働かせるべきでもない。

完全な平等は無理。セクハラという言葉がなくなるような世界にならない限り。

まだまだ浸透していないと思う。事業主だけでなく、個人の意識も低いと感じる。特に男性は女性に対して上から目線の人がまだまだ多い。

共働きで、夫が家事を分担してくれる事が私達の頃に比べると多くなっていますね。それでも家の事はまだまだ女性の方が負担が多いです。例えば夫が夕食を作ってくれて、洗い物をしてくれても、それだけですよね。そのあと妻は冷蔵庫やパントリーの中の在庫を調べて書き出したり細かい仕事、沢山あります。だから夫は、手伝つてると大きな顔をせずお互いに思いやりを持って、感謝の心を忘れずに共存して頂きたいと思います。

子育てしながら働ける職場をもっと増やして欲しいです。

女性は仕事に対する甘えをなくし責任感を自覚し、男性は家事育児の義務を理解し、お互いの立場を尊重する姿勢からはじまると思います。和歌山のような土地柄では、女性の活躍がいわゆる大企業管理職のようなキャリアを目指すものではないですが、人と人を結ぶ潤滑油のような、女性ならではのコミュニケーション能力を営業力として評価できる企業が増えればいいなと思います。

双方の特性を理解し、それに見合った対応ができる社会になって欲しい。

職種、職場によって差が大きいと思う。

社会的にというよりは家庭における男性の役割についての意識改革が大事だと思う。

雇用や待遇に関しては絶対平等でなければいけないのですが、まだまだやや男性有利なところあり！しかし職種によっては女性有利な面もあり、若干致し方ない面もある。

今では女性の活躍するのが当たり前となっている世の中です。男性にはパワーがあり力強いです。女性にも女性にしか出せない力もあると思うので全て平等にはいかずとも評価して欲しいと思います。

男女共生と言っても、今はまだ子どもは女性の体から産まれるので、出産、育児に関しては男女差があっても仕方がないし、そこは上手く共存していくしかないと思う。ただ、介護に関しては男女の賃金の差で少ない方が介護をしないと生活ができないので賃金の男女差がなくなれば、介護は女性という考えはなくなっていくと思う。

本人のやる気ではない部分で、女性のビジネスへの参加が阻害されることはあってはいけない事と考えます。事実まだまだ、家事は女性のものの傾向が強いです、それを無くしていく社会に行きたいです。

何方かと言えば、女性の多い職場なので、あまりアンケートに参考にならなくて申し訳ないです。

現状では男女差別は解消しつつあると思うが、まだ仕事は男性、育児介護は女性と言う空気が強い。確かに適性はあると思うが国を挙げて制度を含めて変えて行かなければ進歩は極めて遅いと思う。仕事では特に中小企業の改善が必要。

こどもを預ける場所がないと無理だと思う。

地域的な違いにより内容は変わらと思うが就職に関しては女性の雇用が増えており、逆に男性の雇用のほうが現状厳しくなっているようにも思う。

男女平等の情報収集と発表をすべきと思う。

男性の方が適した仕事、女性の方が適した仕事は必ずある。何でもかんでも同じにするのは無理があるし、それは平等ではない。性別に捕らわれず、それぞれの能力を評価すべき。

平等にすることは大切だが、やりすぎて逆差別にならないように気をつける必要がある。

終身雇用でフルタイム勤務が当たり前という価値観を転換しないと根本的な問題は解決しない。市役所や議会から短時間勤務やワークシェアリングを推進する手本を示してほしい。努力している企業の取り組みが広まるように務め、男女差別をしている企業は損をする仕組みを作してほしい。議会は半分は女性議員、育児中の女性も多数在籍するべき。

社会的に女性がまだ、家庭を守ることが当たりの傾向が多く、また、若い女性もそれを望む人が少なからずですね！

どうしても男女差が出るのは仕方が無いとは思いますが、女性にばかり負担を強いる傾向になっている事に腹が立つ。家事も育児も介護も女性の負担が多い上に、その上仕事もガンバレというのは女性に死ねと言っているように感じる。女性に社会進出して欲しいなら、男性にも家事、育児、介護などをきちんと負担出来るような態勢が出来ない限り、保育所などが多数出来たって進まない。

女性が活躍するには、保育所、介護施設が充実してなければ、本人、家族、会社で認められてもやはり無理ですね。

男性の給与をいかに上げるかがポイントと思う。

官庁や大企業では可能な事でも中小及び零細企業では人員余裕がなく非常に難しいと考えます。出産、育児、介護に際して欠員の職場支援を如何に行うのかが問題解消の一因では無いでしょうか。元気な退職者の活躍が出来る組織の構築が望まれます。

供に平等に住みよい方向に願っています

差別と区別が曖昧になって過剰になりすぎている。少子高齢化を食い止めるためにやるべき事をまず優先していくべき。女性の社会進出は大切な事だが少子高齢化のキーを握っているのは女性であり、その女性に子供を産もうと思わせる男性の行動・思考改革が最も優先されるべき。制度によるきれいごとの対処療法ではお金がかかるだけで効果が薄い。

女性蔑視が問題

多様な価値観を認め合うことが重要である。

男性には男性として出来ること、女性には女性として出来ることをそれぞれに理解し合い、子育てや仕事や介護がスムーズに出来る世の中であってほしい。

女性が育休を取った後戻れる場があるのか気になる。

それぞれの役割があるので平等にはいかないと思う。それが当たり前で普通だと思う。

昔と違って時代が変わってきている。政府も男女共生社会を推進しており、又これを推進しないと日本国が弱体化する。社会も時代と共に変遷していくが、正に現代は現在進行中である。

子供が出来て分かるけれど、子供がいると働きにくい。そのことが子供のいない人には理解できていないところがあり、その格差を埋めることは非常に難しい。

就業規則で、育児休暇を取れると記載してるのに、実際に取らせない会社は罰則を化すべきだ。

女性に責任ある仕事を任すと出産等で長期休暇を取られると支障をきたす。(弊社の場合)

以前よりかは良く平等になっていると思うが男性優位がまだ多いかもしれません。

女性の方がストレスに対する耐性があります。本気を出せば、女性の方が優れています。

総務・人事を担当していますが、当社では(中小企業ですが)男尊女卑・年功序列が未だに根強い。170人の社員、うち女性は30人でその中の係長は1人のみ。管理職はなし。同じ仕事でも男女で給与・賞与額が全然違う。また、有能な女性社員は産前産後・育休をとっても戻ってきて貰いたいが、権利主張ばかりで仕事をろくにしないスタッフが、当たりの顔して戻ってくるのに問題あり。法制度で平等と決まっているが、やはり無条件に復職を受け入れるのではなく、ノーワーク・ノーペイの思想で、きちんと条件を設けるべきだと思う。周りの士気が下がる。

絶対に無理。綺麗事すぎて話にならない。仕事続けたくても親等のサポートがなければ不可能だし、会社も子供が具合悪くなったからと言ってサポートもしてくれない。

和歌山は実家の近くに住んでる人が多いせいか、祖父母も共同で育児をしているように思う。おかげで、女性の就労も少なくはないが、古い世代の考え方が浸透しており、女性はパートで扶養内で十分だと思える人も多いように思う。男性を雇用している会社も、父親を早く帰らせたり、積極的に育児参加できるような勤務体系にならない限り、賃金の低い女性が離職することになり、育児も介護も男女平等は難しいと思う。

なにもかもバランスが大事なのは。

この様な、質問してませんが、和歌山市どうなんですか、逆に、聞きたいです。

公務員は男女平等社会が進行していると思うが、民間企業では義務付けられているといっても実際には機能していないのではと思っている。特に中小企業ではそのような環境には遠く、官が主導的立場で、今後検討・指導していかねばならないと考えている。

経営者側と労働者側との定例会合の有無によって格差は当然生じてくるのでは。

和歌山は無理でしょう。家事も子育ても仕事も介護も全部、無茶苦茶にでもできる体力・気力がある女でないと無理だと思う。いい妻、いい嫁、いい母親(子供にとっても男にとって)、いい家政婦、全てを女は求められている。それに答えられる女でなければあきらめざるを得ない。

別に無理して女性は働かなくていいと思う。もちろん働きたいのであれば働けばいいが、これから機械が仕事を取って変わってくるので、働き方も大きく変わる。雇用ではないお金の循環が生まれてくるので徐々に平等になる。雇用されてるうちは男女平等は無理だが、以上のことから女性も活躍できる社会になりつつある。例:ハンドメイドで作ったアクセサリをネットで売る。ブログ、動画配信で収益を上げる。などなど

昔に比べ、かなり女性の活躍の場が広がっていますが、もっと結婚・出産した女性が働きやすい環境をつくって行くことが必要だと思います。

和歌山は特に古い体質の会社が多いような気がします。今働いている会社は、役職についている女性は0人です。自分自身、肩書がある人と同じステージですが、いつまでたっても肩書が何もつきません。これまで働いてきた都心部の会社に比べると、圧倒的に古い考え方の人間が上層部に多すぎるように思います。和歌山県が発展するには、県主導で女性の管理職登用・正社員雇用の柔軟化などを取り組ませる必要があると思います。

会社というよりも家庭での男女共生社会が成り立ってない。会社では男女平等に働き、子供の用事で休みをくれたりと配慮があつてとても助かっている。家庭の中で女が全て家事、育児を行うものであるという考えが女性を働きにくい環境にしている、と感じられる。もっと根本的な改善をしないと女性は働きにくいと思う。

和歌山はまだ昭和から脱していない。というか日本全体にまだ感覚が昭和。優秀な女性を活かしきれしていない。でも和歌山は風土的に(見た目は男女平等であるが中身は封建社会のままの男尊女卑)優秀な女性が育たない。女性が優秀でも優秀でないオトコが潰す。酷い風土!

男女と言うより、個人で考え方や価値観に差がありそうな事なので、それぞれの意識を統一させて職場に反映させていくのが難しそうだなと感じます。

男女分けて議論しないといけないうちはまだまだだと思う。このアンケートも育児や介護は主に女性が担うものという前提で作られているのが問題だと感じる。男女平等を求めるよりも、男女関係なく、一人一人の得意分野で力が生かされればそれでよいと思う。

私は男女平等と感じる職場でしか働いたことがないから、不平等さはわからないが、職種によっては差別ではなく区別されているものもあるように思うし、その区別に苦しんで差別と感じる人も存在していると思う。職業だけでなく、家庭での在り方も、まだ男性は家事を「手伝う」という感覚の人が多く、女性が行うものという見方が強く思う。何事も出来る人が共に行うという認識がもっと広まれば、仕事でも家庭でも、共生できるのではと思う。

年齢が高くなり、就労からも遠退いてる年代から言わせて頂けるとするならば、男女の仕事のうんぬんより年齢による就労がいざ探してみるとなかなか少なく、経験値や年齢をその場で指摘されて仕事にありつけない傾向のほうがむしろ多いと感じます。

考え方や受け入れ態勢は地域によると思います。

国の評価は、一般的には思えない。現実には、中小企業では、男女共生は体力的に無理がある。大企業本位すぎる。

各々役割の違いがあるので難しいと思います。

まだまだ考え方が男女平等とまでには、行き届いていない職場も多いように思います。

職種によりけりだともうが、男女共生の目的を『明るい未来作り』とするならば、絶対に男は仕事に、女は子育てと明るい家庭作りという分業に徹するべきと考えます。男女共生の大きな欠点としては、子供を保育所に預け育児を他人任せにすることはその子にとってお母さんからの愛情を受ける時間が極減して人間性の乏しい大人になり暗く危ない世界を作り上げることになります。それに反して明るい家庭であれば、例えば夫にとっても安心した仕事に没頭でき楽しい業務ができます。重ねて申しますが男は人様に役立つ仕事への猛進と、女は子育てと明るい家庭作りに分業没頭することは、日本の少子化対策と大きく落ち込んだ生産性挽回の為に絶対に必要です。

基本型、男性は主業務としての賃金(生活費)を稼ぐ仕事、女性は男性(夫)の世話、子供の世話、親の世話、家政のことを主業務として賃金を稼ぐ男性をサポートする仕事、とすでに日本では、男女が共生した社会となっている。多くの女性は、主業務としての賃金(生活費)を稼ぐ仕事をしたいとは、考えていない。少数の一部の女性が、男性と同じ仕事がしたいがために謳っているだけで、女性の男性化が進むだけである。女性の男性化は、少子化の一番の要因である。産まないという選択肢が登場する。次世代の子供が少なくなる結果、少子高齢化を招き、国家の労働生産性の低下、高齢者の介護手不足、これからの世の中に、一つも良いことはない。

義務を果たさずに権利ばかり主張する人が多いので言った者がちではなく、お互いに思いやり忖度して助け合うのが大事。

女性が活躍できる場があれば、男性が活躍できる場もある。それをわからずに昔からそうだからと変わらない人たちがたくさんいてその思考を切り替えるのは難しいんだろうなと思います。変えて失敗するのは誰だってこわいと思います。

5年前、切迫流産の為、仕事にドクターストップがかかり、その旨を職場に伝えたところ、数時間の間に退職するようにすべて進められた。未だに不満です。また、子供の体調不良、短縮授業、夏休みなどの休暇、参観日など休みたいときに休めるような都合のいい職場もなければ、病児保育の施設も少なく外には働きにいけない。今は深夜に働いたり、家で出来る内職を探したりしています。

男性が家事に参加できる様にしないといけないが、それが出来ない様にしているのが問題。介護休暇も男女どちらもとりやすくする。男女とも時間外勤務をさせないなどが必要。

女性も仕事をもつことは良いことですが、子育てを人任せにしている傾向が心配です。女性の役割を担った女性が少なくなり、男性化した女性が多くなった気がします。共生社会推進するには仕方ないのかもしれませんが、親子の絆はしっかりと保ってほしいです。

基本的には、育児期間は母は家にいたほうが良いと思います。しかし、人それぞれ生き方があり、そういった有能な女性、能力を活かしたいと思う女性がいるなら、そういったことができる環境を整えるべきだと思います。

男性優先社会が少しずつ変わって来て 高齢者も若い世代も男女共生社会の生活に入っている。

パートナーに外で働いてもらって自分は家の仕事に専念したい人もいると思う。家の仕事も簡単ではなく重要だということも世の男性に知ってほしい。

自分がよく知っている個別の事案でなら「あの人の昇進が遅れているのはおかしい」とか「あのポンクラの給料がなぜこんなに高い」とか言えるが、自分には社会全体がどうだという話はわからない。

結局は出産は女性しかできないものであり、完全に平等になる事は難しいと思います。また女性の意識も低いのが現状だと感じています。

時代の流れなので今後は女性の活躍にも期待したいです。

女性が役職についたら、男性以上に頑張っても正當に評価されにくいように思う。それが能力で評価されるといいと思う。

制度よりも社会全体の意識が問題。・保育園や学校の先生もPTA役員会も医者や歯医者ですら「授業参観やPTA役員会や子供が熱を出したときは母親が来るのが普通」と思っている。・祖父母世代は「子供は母親が育てるのが幸せ」だと思っている。・父親は「家事育児は母親がメインでやるもの、自分はお手伝い」だと思っている。・会社は「介護育児期間は女性が休暇を取るのが普通」だと思っている。・そして上記の誰よりも、母親自身が最も「良い母親であるためには仕事よりも自分よりも家事・育児を優先しなければいけない」という思いにがんじがらめに縛られている。「あたしおかあさんだから」が炎上したのは、単純に歌詞に対する反発ではない。世間の母親が皆、多かれ少なかれ「本当はこのような母親（子供が生まれたら仕事をやめ、夜遊びもおしゃれもやめて子供第一になる）が良いお母さんだ、理想なんだ」という思いがあるから。本当に社会全体が「女性も正社員として働くのがあたりまえ」「男性が家事・育児を折半するのがあたりまえ」という意識になれば、このような歌は流行しないし炎上もしない。「へえー、そんな考え方のお母さんもいるんだ。自己犠牲？自虐っていの？もっと自分の人生楽しめば良いのにねー。子供が大きくなったらどうするんだろ。っていうか、お父さんは何してるの？」という感想で終わる。そういう感想を持つ人が増えること＝男女共生の社会が実現された、という事だと思う。

男女平等と言っているがやはり男性の方が優遇されているように思われます。考えの古い諸先輩方が退職されていくともう少し女性も働きやすくなるかも。

会社員と国家公務員として働いた経験がありますが、休暇や待遇、施設の整備などについては、職場や地域によっても差があるのではないかと思います。国家公務員の職場では、かなり恵まれていましたが、体調を崩して退職することになりました。会社員の職場では、「女子社員は〇年働くまで××できない」という慣習がまかり通っていた時代でした。男女ともに、働きたい人が自分らしく働けるような職場にしていくには、前例や慣習にとらわれず、病気などで働けなくなった時に安心して休め、復帰できるように、制度の普及や施設の整備などを進めるとともに、労使双方の意識をもっと改善して、自分の問題としてとらえ、職場の雰囲気をよくしていくことが必要だと思います。

これからは人材不足になるので男女平等にしなければいけない。

何でもかんでも男女平等と叫ぶのはおかしい。共生というならば、お互いに向いている仕事をするべきだと思う。女性登用という言葉で企業に強制するのは共生ではない。問題なのは男女の割合ではない気がする。

社会の受け皿よりも先に、家庭での役割分担の認識を変える教育からはじめるべきではないか。家事・育児・介護など家庭のことは主は女性で男性は従である現状が変わらない限りどうしようもない。男性が家庭のことを『手伝っている』と表現されるような社会ではどうしようもない。

設問が、自身の勤務する企業に関するものなのか、現在の社会全体に対するイメージなのか、どちらについて問うていただいているのか、その前提条件によっても返答が違うのではないかと思います。

家事や育児・介護と仕事の両立は、不可能なのが現実だと思う。企業も厳しい競争の中で生き残りをかけているのであり、他社との競争のない組織(公務員あるいは独占企業等)でないと無理だと思う。

平等とは何をもちて平等というのか、一部の女性が声を大にして要望している平等は平等ではなく優遇を平等にしてほしいという我がままに聞こえてなりません。そもそも母と父、母親と女親、は役割分担があってしかるべきだと思います。女性には女性にしかできないことが、男性には男性にしかできないことがある。何もかも平等なんてありえない女性専用車両を作るなら男性専用車両も作らないと平等ではない。

性別の特性を生かして適材適所に配置するのは、とても大変な事だと思います。

子育てしにくいから女性の社会進出は女性の努力まかせ。子どもが病気、女性が休むのは当たり前。こんな状態では平等なシステムがあっても生かされない。

子供がいると、フルタイムで働くのは難しいと思う。最近では警報が出ただけで学校まで迎えにいけないといけなかったり、共働きの家庭には難しい状況が多い。

わからないと回答したのは、どちらとも言えないと言う意味です。トランスジェンダーなどへの理解を表す条例もつくってください。

日本古来の風習が根強く、表向きは男女平等など綺麗ごとを唱えているだけで、現実問題は個々の考え方に個人差があり過ぎるように思います。封建的な考え方がまだまだ続くであろうと思われる課題かと思えます。現況改善対策を小さいことから見直し必須だと思います。

これからの時代、男女共生社会が実際に浸透したらいいと思います。

女性活躍推進法を、初めて知りました。女性が、出産を機に子育てしながら、正規職員で働くには、保育施設の延長保育や病児保育など、サポートの内容が充実していないと働く事は難しいです。また、法が整備された事によって、女性が職場で男性と同じような扱いを受けられる事には繋がっていないように思います。社会が、子育てをしていくという風土がまだないので、現実には女性の立場は変わっていないと思います。ファミリーサポート制度もありますが、退職後に時間を持っている方々が、率先して社会や子育て世代をサポートして貰えれば、いいと思います。

このアンケートは、以前に投稿しています。再投稿です。現場・現職を離れて十数年経た者に、現在の職場の現状を問うのは、無理がある。多種の公務員の場合と民間の企業(大・中・小)では状況が異なると思われる。民間の業種・職種に携わっている方々にアンケートすべきではないですか。

女性は、育児・介護が大変と思う。少子高齢化社会の面からも女性が優遇されるべきである。

自分の会社については女性がメインの会社のため、大変働きやすいです。ですが男性がメインの会社で働くには育休等が取りづらいとよく聞きます。

和歌山の土地柄なのか、男性優位の考え方が多いように感じます。すぐに変わるということは難しいのですが、根気よく啓蒙活動をして、浸透させていく必要があると思います。特に地位のある年配の男性について理解を深めてほしいと思います。

女性も男性も、ライフスタイルを変えても仕事を辞めず、キャリアを積めるような社会を実現する必要があります。結婚改姓した時、旧姓を使い続ける制度や実態について、和歌山は他府県に比べて、かなり遅れています。学校の先生でさえ、旧姓を使い続ける先生が皆無です。この辺りは、他府県を見習うべきだと思います。

やはり昔に比べて男性の賃金下がってるし税金などは上がるし年金額も上がり子供を産んで育てて行くのは大変で、しかも預ける先も無いと言う現実では男女平等とは思えない。出産しても帰る会社の場所も無いと聞きます。和歌山ももう少し男女問わず育休を取得出来るように、又介護休暇も男女問わず取りいれてくれる会社を促して住みやすい県や市になると男女平等に近づくと思います。

個人の考え方、捉え方を変えなければ、まわりで何をしても、その人に響いていないと結局同じ。

働く職場によって随分違いがあると思います。

非常に難しい問題だが、家庭での役割分担があるから難しいのでは。

専業主婦ですが、肩身の狭い思いをしています。周りの人が働いているとそれがとてもいいことで、そうしないとダメな人のように見えるので悲しいです。

保育園に預けていても、休日や年末年始、春休みなど休みが多い。もっと他県を参考に仕事しやすい環境を作って欲しい。

お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

皆さまからいただきました貴重なご意見・ご回答を参考にさせていただき、今後の本市の男女共生に関する施策の実施に取り組んでまいりたいと考えております。

今後ともご理解とご協力いただきますようお願いいたします。